



電気の大切さを体験して学びました！ ～SDGsと地球温暖化について～



12月15日（月）に4年生の総合授業で、SDGsについて学ぶ活動の一環として、「電気と地球温暖化」をテーマにした体験学習を行いました。千葉県地球温暖化防止活動推進センターと野田エコライフ推進の会から講師の方がお越しください、電気が地球温暖化はどうやって関係しているのかについての講義と、自転車をこいで電気を作る発電装置を使って発電体験にチャレンジしました。

発電体験では、生徒たちが自転車を一生懸命こいで電気を作りました。みんなで協力してこいでも、発電できた量はたったの0.8W。これは、ニンテンドースイッチが約12分使える程度に値します。普段、何気なく使っている電気ですが、実際に自分たちの力で作ってみると、「電気を作るのはこんなに大変なんだ！」という驚きの声がたくさん聞こえてきました。

また、電気を作るために多くのエネルギーが使われていることや、そのことが地球温暖化にもつながっているという話も学びました。電気をたくさん使いすぎると、二酸化炭素が増え、地球が少しずつ暑くなってしまいます。

今回の体験を通して、電気は当たり前にあるものではなく、大切に使うことが地球を守ることにつながるということを実感することができました。小さな気づきですが、これもSDGsへの大切な一歩です。

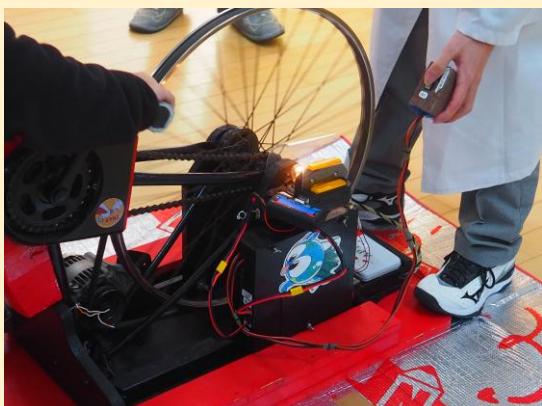
これからも、身近なことから地球や未来について考えていきたいですね。



電気を使うことのメリットやデメリットについて、みんなで考え、たくさんの意見を出し合いました。



一生懸命自転車をこいで発電！
皆が「がんばれ～！」と応援してくれています。



手で漕ぐ装置もありました。
LEDは白熱球より軽い力で電気がつきます。



あっという間に時間が過ぎ、最後に「誰がやる？」
みんなで相談し、じゃんけんで決めることになりました。